



遠藤れい子ひまわりレポート



○遠藤れい子事務所 〒940-0052 長岡市神田町3丁目1-3 ☎ 0258-32-1741 fax 0258-32-6443
○県議会執務室 〒950-0965 新潟市中央区新光町4-1 県議会内 ☎025-280-5475



2月県議会 私の一般質問に対する知事答弁…社会の変化にギャップありすぎないか?! (その2)

「パートナーシップ制度…調査の段階ではない！ もっと具体的に前へすすめよ」と再質問

丸岡稔先生 遠藤れい子県議を応援



3月14日、丸岡稔先生は遠藤れい子県議に、「私にできることはします。頑張ってください」と激励して下さり、新しいかたチラシに登場していただけることに

ジェンダー平等

【遠藤れい子の質問】

新潟、三条に続き、長岡市が今年2月1日からパートナーシップ・ファミリーシップ制度を導入し、県人口の過半数の規模に。県内どこに暮らしていても同性カップルが尊重されるよう県としてパートナーシップ制度を導入すべきと考えます。

【知事答弁】

更なる取り組みを検討するため、県民の意識調査等を実施し、現状を把握し、国の議論や県内外の先行事例や市町村の意見等を踏まえ、対応を検討していく。

【再質問】



調査の段階ではない。具体的な導入ステップは？

【知事答弁】

年度が開けたら早々に着手する。

2. 新型コロナ対策

【遠藤れい子の質問】

岸田内閣は、5月連休明けから「5類」への移行を表明しています。

しかし、県内死亡者の平均年齢は84.6歳であり、感染経路は「不明」が第1位であることから、高齢者施設におけるクラスターの発生には、引き続き

特別の警戒が必要です。

高齢者施設における消毒薬やマスク・ガウンなどの防護具・資機材の確保、入所者や職員への定期的な検査とワクチン接種、看護師の派遣や職員研修など、モノ・ヒト・カネの投入が引き続き求められます。今後の対策は。

【知事答弁】

5類変更後も、対策を継続していくことについて全国知事会を通じて要望した。県として高齢者施設の集団感染対策に取り組んでいく。

3. 地域医療構想

【遠藤れい子の質問】

県央基幹病院は、「県央地域全体の救急件数約8,000件のうち、県央基幹病院では、5,000〜6,000件程度を受け入れることを目指し」「一次、二次と三次（一部）の救急を365日、24時間受け止められるER救急（すべての救急患者を診療

する「断らない救急）」を

めざす方針ですが、救急の一局集中に「対応できない状況が発生するのではないか」との懸念の声が寄せられています。あまりにも過大な救急受け入れ方針は、見直すべきと考えます。

【知事答弁】

ER救急体制を構築し、他の医療機関と役割分担し、圏域内で95%を受け入れることを目指している。現在燕労災病院でPREER救急として日中を中心に救急受け入れの拡充をすすめている。しっかりした準備で、受け入れは可能と考えている。

(以下、次号)



3/13 中之島支所前でスタンディング